

試験研究評価シート(事後)

評価の種類	事後評価			担当名	
課題名 (研究テーマ)	徳島県内公共用水域における一般家庭等から排出される化学物質の実態調査について			水質環境担当	
研究期間	平成26～28年度	予算額 (千円) 1,338	(総額) 309 累計 1,338	予算種類	国補・ <u>県単</u> その他()
必要性	<p>これまでの公害問題は、水質汚濁防止法等による事業所規制により、一定の改善が見られているところであるが、生活排水の流入の多い中小河川では水質の改善が十分進んでいないという問題もある。</p> <p>化学物質についても、一般家庭から多くの種類が排出されており、水生生物や人への影響が懸念されているものもある。近年では、水質環境基準項目等としては、水生生物の保全を目的としたものが続々と追加されてきており、平成25年3月には、生活排水を主な発生源とするLAS（直鎖アルキルベンゼンスルホン酸）が環境基準項目となった。</p> <p>今後は生活排水にこれまで以上に注目していく必要があると考えられる。</p>				
目標	生活排水等を由来とする化学物質の汚染実態を把握し、今後の環境行政の基礎資料とする。また、環境教育等の基礎資料としても有用と考えられる。紫外線吸収剤や抗菌剤等の測定法を検討した後、実際に県内の河川、水場等の水測定を行い、汚染実態を把握する。				
研究内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 調査対象物質候補選定と測定方法の検討 紫外線吸収剤（日焼け止め）、抗菌剤（トリクロサン）LAS 2. 河川の採水と調査項目の測定 3. 夏季のレクリエーション時に、水場（ラフティング実施会場、海水浴場）での調査対象物質の経時変化の把握。 4. 下水処理の流入水と処理水について測定 				
手法	LC/MS/MS又はGC/MSを使用して調査対象物質の測定を行う。				
成果	<p>測定方法の確立ができた。</p> <p>県内各地点の測定を行い、汚染状況を把握することができた。</p> <p>下水処理の流入水、処理水について測定、処理の現状を把握することができた。</p>				
その他					